

イノチオみらい株式会社

農産局長賞

所在地：愛知県豊橋市新西浜町1
(イノチオファーム豊橋)

面積：3.9ha (栽培棟 3.6ha)

構成員：65名

認証：GLOBALG. A. P.

栽培品目：ミニトマト

応募区分：個別経営の部

取組の紹介

【GAPに取り組んだきっかけ】

- 農林水産省補助事業「平成27年度次世代施設園芸導入加速化支援事業」を活用して、多連棟式の高軒高ハウス(3.6ha)を整備。独自の施設園芸の栽培技術の確立とその普及、生産した農作物の販売の安定、輸出も視野に入れた取組を行う中で、GAP認証の必要性を感じ、平成29年4月、ミニトマトでGLOBALG. A. P. 認証を取得。



イノチオファーム豊橋の全景

【GAPの継続に向けた取組】

- 従業員全員が農業未経験者。OJTの充実を図りつつ、自社でGAP運営管理の規程集を作成し、社内で運用するとともに、GAPや収穫物の衛生管理の講習を定期的実施。
- 当初は全ての農作業を紙媒体で管理していたが、農作業向けの労務管理アプリを導入し、社全体で1,000h/年の労働時間を削減。
- ユーザーからのクレーム(裂果等)があった際には対応票に記入し、原因追及から改善まで行うことにより、社員の品質管理の意識が向上。クレーム率が令和2年度0.43%から同3年度0.21%と大きく減少。



自社で作成したGAP運営管理規程

【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- 廃液中のリン含有量を抑えるため、リンの施用量を慣行比2割削減し、削減前と同等の生育量を確保。
- 隣接する下水処理場の放流水熱の利用や、生育が促進される時間帯に限定した炭酸ガス施用等により、トマト1kgの生産で発生するCO₂排出量(重油・電気等をCO₂換算)が令和3年度1.94kg/kgと5年間で約6割削減。
- GAP認証を取得したことで、地域にある大手スーパーへの販路が拡大。そのスーパーに年間200tのGAP認証のミニトマトを新たに出荷。そのほか、海外輸出先の開拓にも取り組む。
- 農福連携に取り組む、複数の障がい者が生産、出荷に係る業務を実施。



小売店舗内に並び、イノチオみらい(株)が生産したミニトマト

【地域への波及効果】

- 農業法人を含む民間企業、公的機関、教育機関等からの研修を積極的に受け入れ(2022年度400名以上)、GAPやSDGsの取組を紹介。



店頭での説明用POP